綱　　領

1. われわれは、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて吾々の権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
2. われわれは、常に暴力と独裁を排し自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
3. われわれは、赤十字の民主化と近代化を促進することによって、その人道的任務の達成に寄与する。

日赤新労

2020年
3月20日
発　行
第248号

発　行　所
日本赤十字新労働組合連合会
（日　赤　新　労）
東京都港区芝大門1-16-11茶乃木ビル5F
TEL（03）3433-3028
FAX（03）3432-4560
Eメール　shinro@shinro.org
ホームページ http://www.shinro.org/
発行責任者　梶谷　充

第五十九回 定期全国大会開催

統一と団結の力を最大限発揮

二月十六日から十八日の三日間、東京都千代田区「お茶の水ホテルジュラク」において、全国より代議員及びオブザーバーを含めた九十八名の参加のもと、第五十九回定期全国大会が開催された。会議では、二〇二〇年度運動方針案や要求書案、予算案等について慎重な審議が行われた。また、今大会では新たな賞与制度に対しての年間の要求額を決定するにあたり、臨時ブロック会議の開催を行った上で本社本部間交渉の要求額を決定した。さらに、本社から令和二年一月三十日の団体交渉において新たに提案された「Rプラン」に対しての質疑応答や問題点の確認に時間を要した。大会最終日には新執行体制も決まり、本年度も要求獲得に向けて力強く前進していくことを確認した。

初日の十六日は、開会の日赤）、書記に曽野友輔氏（名二日赤）。

ことばの後、出席者全員により日赤新労労働歌斉唱が行われ、資格審査・成立確認を経て大会役員および議長団が選出された。議長には畑賢俊氏（岡山日赤）、副議長に松本良樹氏（今津

会に先立ち伊藤中央執行委員長が挨拶に立ち、次のように述べた。

「令和元年度賃金交渉に関しては、要求額定昇込み三・〇％（一万千二百円）に届かないものの、基準内給与は〇・二一％、一人当たり八〇二円の引き上げ、定昇込みで平均一・五七％、一人当たり五千八百七十五円の改定で賃上げの妥結となりましたが、『給与要項第三十五の改正』や『夏季特別有給休暇の廃止に伴う年次有給休暇への振替え』などの大変厳しい交渉となりました。

日本赤十字社の決算報告について平成三十年度は、大変厳しい状況となっており、医療施設全体の決算は二百八億円の赤字。六十五施設は赤字決算であり、黒字施設の黒字幅が減少し赤字施設の赤字幅が増大しています。また、血液事業特別会計については、平成二十八年度から黒字に転じ、平成三十年度も五十一億円の黒字となりました。医療事業については、令和元年度も大変厳しい状況と思われます。医療事業は厳しい経営状況にありますが、賞与制度も変わり、本社本部間での交渉が春から始まります。この定期全国大会で要求額を決め、賞与についての春闘が始まります。また、速報でお知らせしましたが、本社が新たな賞与の減額ルール、給与制度の見直し『Rプラン』を提案してきております。今年はさらに今までにない大変厳しい交渉の年となりそうです。

我々連合体は、引き続き諸先輩方が築き上げた『労使協調・良識ある組合活動』の基本路線を受け継ぎ、常に時代の変化を見据えながら問題に的確に対応していかなければなりません。また、今後もより一層組織の活性化をはかり、諸要求を運動に反映させるために、『統一と団結の力』を最大限発揮し、組織の拡充と強化により組合運動を活発にすることを共通認識とし、さらなる躍進を続けていく決意のもと、活力あふれ魅力ある組織を築き上げていかなければならないと考えています。組合は組織力であり、組合員の皆様で築き上げるものと思っております。そのためにも組合員皆様のお力をお借りする時があると思いますので、組合活動にご協力のほど、宜しくお願い致します。」

報告事項に入り、各部報告として組織・教宣・調査の各部長より一年間の活動報告が行われた。特に、佐久間教宣部長より初心者研修会への参加の促進の要望があった。一般経過報告は、内海中央書記長から報告が資料にそって行われた。続いて、梶谷中央会計より二〇一九年度会計収支決算報告が行われた。決算と収支報告書に関して指摘があり一部修正を行った。

大橋会計監査委員からは適正且つ正確に処理されている旨の報告がなされ承認された。単組活動報告においては、各単組代表者から配布した資料をもとに補足説明が付け加えられながら、施設交渉やレク活動等の内容へ質疑応答が行われた後に承認された。

大会二日目は、本部より今年度より始まる賞与における本部本社間交渉で、法人業績連動部分への要求額を決めるにあたり、午後より臨時ブロック会議を開催したのちに意見統一を行い、要求額を決定したいとの提案があった。臨時ブロック会議での議事内容の説明の後、二〇二〇年度運動方針案について審議が行われ承認された。昼休憩をはさんで臨時ブロック会議が行われた後に審議を行い、法人業績連動部分と施設業績連動部分を加味した要求額として、四十八割プラス六万円と決定された。その後、要求書案においては基本賃金の引上げを定昇込み三・〇％（一万千二百円）とすること、その他の要求書案については賛成多数で可決された。スローガンおよび闘争方針案は原案どおりで承認された。予算案については、二〇二〇年度は交渉回数の増加を懸念して、それに伴う予算を超える出費に対する質問が出たが、一般会計積立金を払い戻して費用を捻出することで承認を得た。その他の質疑応答の後、原案どおりで承認された。その後、会議時間ぎりぎりまで本社提案「期末勤勉手当にかかる除算方法の制定」と「Rプランの提案」について質疑応答が続いた。

大会最終日はHPのパスワードの変更、結成六十周年記念式典準備委員の印南氏（那須日赤）からの報告、本部より来年度の会議の日程と開催予定地について報告があった。また、昨日に続き、二〇二〇年度期末勤勉手当と本社提案「Rプラン」について質疑応答があり、今後の本社間交渉での確認事項や要求について整理が行われた。その後、本部役員選挙が行われ、二〇二〇年度役員として信任された。また、伊藤中央執行委員長の提案で、相談役に山本氏には引き続き、前中央書記長の内海氏にも委嘱することと、労働法学者の松岡二郎氏を正式に顧問としてお願いすることが全会一致で承認された。

足利赤十字病院職員組合の入江光世氏により大会宣言が読み上げられ、大会議長である畑賢俊氏の力強い掛け声のもと、出席者全員で「頑張ろう」三唱が行われ、無事に大会を終了した。

基本賃金の引上げ 三・〇％に決定

■報告事項■

一、各部報告
二、一般経過報告
三、二〇一九年会計収支決算報告
四、会計監査報告
五、単組活動報告

■審議事項■

一、二〇二〇年度運動方針案について
本部提案事項にて承認された。
二、要求書案について
基本賃金の引上げを定昇込み三・〇％（一万千二百円）と決定。
その他の要求書案について賛成多数で決定された。
三、スローガンおよび闘争方針案について
原案どおり承認された。
四、予算案について
二〇二〇年度は交渉協議費の増額が見込まれそうだが、一般会計積立金を払い戻して費用を捻出することで承認を得た。その他の質疑応答の後、原案どおりで承認された。
五、本部役員について
（新役員は裏面に掲載）
六、二〇二〇年度期末勤勉手当について
十七日午後より臨時ブロック会議を開催したのちに意見統一を行い、要求額を決定。
【本社要求額】
四十八割十一律六万円
七、二〇一九年度第十一回団体交渉における本社提案について
「期末勤勉手当にかかる除算方法の制定」と「Rプラン」について質疑応答を行った。新たな質問や意見等は本部にメールにて知らせることとした。
八、その他
○HPの新しいパスワードと携帯用のHPの廃止
○第六十回定期全国大会について
・会場候補：東京もしくは名古屋で協議中
・表彰者は中央委員を通算七年以上（本部役員任期も含める）、本部役員を五年以上務めた方を対象とする
○二〇二〇年度会議予定の報告

第五十九回
定期全国大会
大会宣言文

日本赤十字新労働組合連合会は、令和という新たな時代を迎え第五十九回定期全国大会を二〇二〇年夏季オリンピック開催都市、東京都千代田区「お茶の水ホテルジュラク」において盛大に開催した。

私たちは二〇二〇年度運動方針として、

○実質賃金の獲得と豊かでゆとりある生活の実現
○労働時間短縮と完全週休二日制の実施
○教宣活動の強化と組織の団結及び活性化
○勤務評定の完全実施と人材育成
○定年年齢の引上げと老後保障の充実
○福利厚生の充実と活力ある職場環境の実現
○恒常的な事業の継続と永続的な雇用の維持・確保

以上の七項目をスローガンに掲げ、年々厳しさを増す労働環境のなか、日赤新労の理念のもと、力強く前進することを誓い、大会宣言とします。

足利赤十字病院職員組合
入江　光世

2020年度 本部役員

中央執行委員長
伊藤 高敬
（愛知血セ）

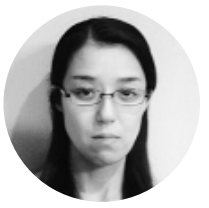
中央副執行委員長
佐久間直紀
（千葉血セ）

中央副執行委員長
佐藤 由峰
（福島日赤）

中央書記長
梶谷 充
（三原日赤）

中央会計
江里 陽介
（岡山日赤）

中央執行委員
長谷川 修
（福島血セ）


中央執行委員
水﨑 江利
（浜松日赤）

中央執行委員
國本三知代
（名二日赤）

中央会計監査
大橋 宏彰
（大津日赤）

中央会計監査
西岡 尚美
（嘉麻日赤）

相談役
山本 俊一
（鳥取日赤）

相談役
内海 和彦
（石巻日赤）

―第1回中央委員会―
2020年5月10日(日)～11日(月)
東京都港区芝浦1丁目3―10
「チサンホテル浜松町」

中央執行委員長就任挨拶

第十三代中央執行委員長　伊藤 高敬

この度、第五十九回定期全国大会にて中央執行委員長に承認をいただきましてありがとうございます。

当組合は、平成二十二年からは筆頭組合となり、名実共に日赤における労働者の代表となっています。我々連合体は、従来にも増して発言力・影響力が高まることは疑いなく、引き続き諸先輩方々が築き上げた「労使協調・良識ある組合活動」の基本路線を受け継ぎ、常に時代の変化を見据えながら問題に的確に対応していかなければなりません。また、今後もより一層組織の活性化を図り、諸要求を運動に反映させるために、「統一と団結の力」を最大限発揮し、組織の拡大と組合活動の強化を共通の認識とし、更なる躍進を続けていく決意のもと、活力あふれ魅力ある組織を築き上げていかなければならないと考えています。

さて、ここ最近の内閣府発表の月例経済報告では、「景気は、輸出が弱含むなかで、製造業を中心に弱さが一段と増した状態が続いているもの、緩やかに回復している。」と発表されているにも関わらず、実際、私たちは景気回復を実感できていません。また、日本赤十字社の平成三十年度決算報告では、血液事業特別会計については、五十一億円の黒字決算となっていますが、医療施設特別会計については、二百八億円の赤字決算、会計単位では九十施設中六十五施設は赤字決算となっています。医療事業については、令和元年度も大変厳しい状況と思われ、今後、経営は大変厳しい状況になってくることは明らかです。

当連合体の令和元年度賃金要求は定期大会にて決定され、定期大会終了後から本年度の春闘が始まります。過去六年連続でベースアップを勝ち取っていますが、令和元年度賃金交渉においても、引き続き実施時期が三月となる妥結結果となりました。今後も、大変厳しい状況は否めないと思います。また、諸要求項目についても、オンコール、週休二日制完全実施など交渉事項は山積しているなか、新たな「Rプラン」を本社は提案してきています。今後の各ブロック会議、中央委員会等にて組合員の皆様の意見集約をし、本社交渉を行っていきたいと思います。

組合は組織力であり、組合員の皆様で築き上げるものと思っております。諸先輩方もことあるごとに本社交渉では、職員処遇の統一を目標に鋭意交渉を行っていました。新執行部体制になっても信念は変わりなく「職員処遇の統一」を念頭に鋭意交渉を行っていきたいと思っております。そのためにも組合員皆様のお力をお借りする時があると思いますので、組合活動ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

新任挨拶

中央執行委員
長谷川 修
（福島血セ）

福島県赤十字血液センターに入社し、部署内の先輩に勧められるがまま加入した職員組合ですが、あれから早いもので二十年が経ちました。単組の執行部もこれまで十年以上務め、気付けば一番の古株です。そしてこの度、加入当時は全く考えもしなかった中央執行委員を務めることとなり、責任の重さを実感しているところです。

本部の方とお話させていただくと、「大変だけどやりがいがある」とみなさん口を揃えて話していたのを記憶しています。本社との交渉や執行部としての用務などが、確かに大変だと思いますが、与えられた職務を全うし、足手纏いにならないよう頑張りたいと思いますので、宜しくお願いします。

中央執行委員
國本 三知代
（名二日赤）

私が組合活動に関わるようになったのは、今から十年ほど前に期末手当の要求が通らなかったことがきっかけでした。その時は「人事院勧告」の言葉も知らずに「なぜこんなに頑張っているのに」との思いが先行し、当時の単組執行部に詰め寄っていました。その時に「自分で納得できるようにやってみれば」と誘って頂き、翌年度から私の組合人生が始まりました。

令和の年になり、組合活動はますます厳しい局面に立っています。本社が提案するRプランは、速報の情報が流れただけで組合員を退職へ誘う起爆剤になる勢いです。日赤新労は労使協調の組合です。話し合いによりお互いが納得できるような交渉を進められるように努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

退任挨拶

前 中央書記長
内海 和彦
（石巻日赤）

本部役員を以前に引き受けて、その間に東日本大震災があり、本部活動ができない時期もありましたが、皆さまの暖かい支援を受けてお返しが出来ないかと六年間務めました。一度退き三年前に中央書記長として復帰して今日まで務めさせていただきました。

思い起こすと、書記長一年目に、事務局二名体制が崩れ、入所間もない南さん一人となりました。事務局の運営で一杯になり書記長職のことを忘れていました。山本前中央執行委員長の機転で、事務局の秋友さんの力を借りて乗り切れた事、また、当時の南さんが「話しが違うからやめます」と言わないで～と心のなかで呟いていたことを思い出します。今年度の新執行部体制で臨んだ四月に体調を崩し、執行部にはご迷惑をおかけしました。今回役を降りるにあたっては、職場のこと、今年六十歳となり次のステップのこと等考えて決めました。書記長三年間は皆様の助けがあってこそやれたと思います。苦しくもあり、楽しい三年間でした。お世話になりありがとうございました。

また、本社より厳しい提案が新たに出てきました。一致団結して取組んでいきましょう。本部役員の皆様よろしくお願いいたしますプロアから応援します。

前 中央執行委員
小野木 学
（名二日赤）

わずか一年間でしたが、大会等で決議した事項を本部―本社の団体交渉や労使協議会で交渉する機会を頂きました。単組で重ねてきた施設との交渉経験もあまり役に立ちませんでした。第一回の団体交渉で、私の意見が問題になり伊藤中央執行委員長と内海中央書記長が本社に呼ばれて注意を受けた事が今は良い思い出になっています。本社代表と本部との真剣で張り詰めた空気の中、力不足ではありましたが、少しでも新労組合員の気持ちを代弁できるよう意見できたことは自身にとって良い経験となりました。

また、ちょうど自身が所属する第三ブロックの高山赤十字病院職員組合設立に関わることが出来たことは感無量でした。高山設立で組合活動で一番充実した一年を過ごすことが出来ました。少しでも私に期待して頂いた方々には申し訳ありませんでしたが、今後は一組合員として日赤新労の発展のため協力や応援をしていきたいと思います。最後にすべての出会いに感謝して退任の挨拶とさせて頂きます。

二〇二〇年度　全国会議開催予定

○第一回中央委員会（東京都港区）
　五月十日～十一日
○単組新任役員研修会（岐阜県高山市）
　六月二十七日～二十八日
○病院看護部会（愛知県名古屋市）
　七月十一日・十二日
○第二回中央委員会（福島県福島市）
　九月十三日～十四日
○第二回血液センター部会（滋賀県草津市）
　十月二十四日～二十五日
○第三回中央委員会（広島県広島市）
　十二月十二日～十三日
○第六十回定期全国大会
　二〇二一年二月十四日～十六日